

## 登下校時の子どもの安全確保

子どもたちの登下校時は、警察や教育委員会、学校、市に加え、地域住民、保護者などの関係者が連携して防犯対策を進めています。

## 不審者情報の共有

市内で発生した、子どもたちに関わる不審者情報をメールで発信し、市民に注意を呼び掛けています。

不審者情報を共有することで、市内全体の自主的な防犯パトロールなどに活用してもらうことを目的としています。不審者情報メール配信サービスの登録者は、現在1,900人を超えています。

右のバーコードから登録できるほか、市ホームページからも情報が確認できます。



## 地域連携の場を有効活用

市では通学路合同点検対策検討協議会を設置し、小学校15校の学区で通学路の危険箇所を点検しています。警察、県土木課、学校関係者、市建設課、市民生活課、教育委員会が合同で危険箇所の把握や対策、改善を行っています。

本年度の合同点検は三川小、富浦小、嚶鳴小、萬歳小、

矢指小の5校で、6月18日から7月26日にかけて実施しました。

各小中学校区で行われる「1000か所ミニ集会」や「学区会議」などを活用し、地域の防犯対策を協議することで、危険な箇所の「見える化」を図り、連携を深めています。

## 関係機関と学校の連携

警察や市のスクールガード・リーダーによる、不審者対応訓練も計画的に行われています。

登下校中の声掛けや後追い、校内への侵入など、さまざまな不審者を想定し、子どもたちの避難方法や教員の不審者への対応について訓練しています。

## 現在の課題

現在、高齢化による防犯ボランティアの担い手不足や、共働き家庭の増加による保護者見守りの困難などが課題になっています。地域で防犯の目を強化し、犯罪者が入り込めないまちにすることが重要です。



6月17日に富浦小で行われた不審者対応訓練

## あさひ輝いた人々

第12回

## 無線七宝の元祖 世界の濤川

なみかわ そうすけ  
濤川 惣助 (1847~1910年)



濤川惣助は明治時代に無線七宝しゅっぽうを完成させました。その作品は迎賓館げいひんかんに飾られるなど、優れた作品を残し、世界的にも有名な人です。

惣助は弘化4(1847)年、鶴巻村蛇園に生まれました。元治元(1864)年には江戸に出て陶器商を営みました。その時に七宝焼(金属や陶器などにガラス質のうわぐすりを焼き付けたもの)を目にして大きな衝撃を受け、自分でも七宝焼を始めました。七宝焼とは七宝をちりばめたように美しい焼き物ということから、名付けられたといわれていて、その技法には無線七宝と有線七宝があります。

無線七宝は惣助が考え出した方法です。模様の輪郭の

区切りに針金を使うことは、無線七宝も有線七宝も同じですが、無線七宝はその針金を途中で取って焼き上げる方法です。

惣助の作品は外国向けの輸出用が多くあったことから、国内には残っている作品は少なく、それだけに貴重です。国内では旧海上町で持っている人がいるほか、東京国立博物館などで数点所蔵されています。

作品は明治16(1883)年、アムステルダム万博で最優秀賞を受賞し、明治22(1889)年、パリ万博でも名誉大賞を受賞するなど、世界的にも認められました。その功績により、明治28(1895)年、緑綬褒章りょくじゅほうしょうを受章しました。

惣助最高の作品は、迎賓館の花鳥の間に飾られています。花鳥の間の名前のとおり、菊、桜、アジサイなどの花と、ヒバリ、鶯、鳩などの鳥を組み合わせで描いた30枚の七宝額絵です。この作品は神業と称されるほど、国宝級の名品です。



迎賓館に飾られている作品